

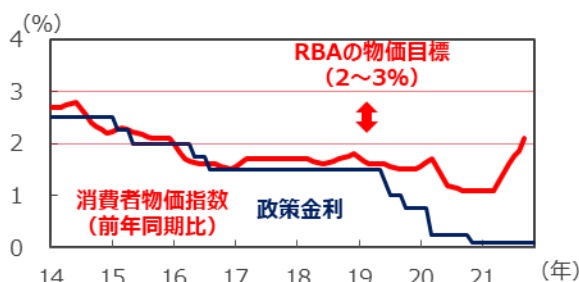


今日のトピック 豪中銀は量的緩和の2月終了の可能性をほのめかす
金融緩和からの脱却姿勢が豪ドルを下支え

ポイント1 豪中銀は金融政策を据え置き
政策金利、債券買入れ額を維持

- 豪州準備銀行（RBA）は12月7日の金融政策決定会合で、翌日物金利の目標を0.1%に維持しました。
- 債券買入れプログラムについても、これまで通り週40億豪ドルの買入れを行う方針が維持されています。声明文では、「少なくとも2022年2月中旬まで現行の債券買入れペースを維持する」としています。

【消費者物価指数と政策金利】



(注) 消費者物価指数は2014年1-3月期～2021年7-9月期。変動の大きい項目を除外したトリム平均値。
政策金利は2014年1月～2021年12月。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 債券買入れは2月に終了も
金融緩和からの脱却姿勢が続く

- 一方、「2022年2月の会合では債券買入れについて検討を行う」とし、「2月中旬までに保有する合計3,500億豪ドルの債券は経済を大きく支える」と、直接的な表現ではないものの、債券購入を2月に終了する可能性をほのめかしました。
- 9月の会合では債券買入れ縮小（テーパリング）が決定され、11月の会合では国債の利回り目標が廃止されるとともに、2024年まで利上げは想定されないとの文言が声明文から削除されましたが、今回も金融緩和からの脱却する姿勢が続きました。

【豪ドル円レートと豪日金利差】



(注) データは2019年1月1日～2021年12月7日。
豪日金利差は2年国債利回りの差。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 金融緩和からの脱却姿勢が豪ドルを下支え

- 債券買入れの2月終了の可能性が意識されたことで、12月7日の為替市場で豪ドルは米ドル、円に対して上昇しました。RBAによる金融緩和からの脱却姿勢が豪ドルを下支えする状況となっています。
- 新型コロナウイルスの感染はまだ続いているものの、政府の方針転換によってロックダウンは解除されており、経済再開が順調に進んでいます。オミクロン型の感染動向は不透明なもの、RBAは「景気は2022年前半にはデルタ型感染拡大以前の軌道に戻る」と予想しているため、今後も金融緩和縮小のタイミングを探る展開となりそうです。

ここもチェック! 2021年11月25日 2021年12月の注目イベント
2021年11月16日 中国の10月の生産、消費は予想を上回る

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。